

# 「河川の流路変遷と生活―湊川と生田川―」

コース・専攻：生活環境

グループ名・フローパス

メンバー井上薫、豎山衛子、津村優子、森田和代

## 1 趣旨

主に湊川、生田川を対象に、流路変遷の歴史を調査し、経済文化面などから人間生活との関りについて考察した。

## 2 調査の動機

表六甲における神戸市域の主な水系は 10 本あり、地形などから短時間に多量の降水が流出する川である。このうち新湊川は、付け替え前は、天井川で、ふだんは水が少ない状況であったが、大雨が降れば危険な急流となり、洪水を繰り返してきた歴史があった。

神戸が開港場となり外国人居留地が建設されて以降、神戸地域が次第に発展するにしたがい、天井川の湊川が東西交通の障害となってきた。

このこともあって、何度か付け替えを求める動きが出てきたのである。湊川の付け替えを求めて出された願書には、「神戸と兵庫は連続した区域であるにもかかわらず、湊川が分断している」、このため、「人情風俗を異にし、・・・協調しないことが多い」、「湊川が・・・両者を隔絶し、コミュニケーションが絶えている」と述べている。我々は、この願書に注目し、調査を始めた。

## 3 概要

旧湊川を挟んだ兵庫と神戸は、もともと別の独立した地域社会であった。明治 12 (1879) 年、「神戸区」が発足するが古い兵庫と意気盛んな神戸はことごとく対立し、両者は互いに交流しようとしなかった。

昔から栄えていた兵庫側は街並みや商業形態が整い、町方衆がこの地に異国人が入ることへの拒否感も有り、開港には反対であった。そこで土地に余裕のあった神戸側が開港地候補となり、開港後神戸の街が貿易拡大と共に大いに発展していくのである。湊川以西の兵庫に関する経済発展はしばらくそのまま、神戸側は、欧米の技術が導入された近代的な街となり、この湊川を境に格段の発展を遂げていくのである。

兵庫と神戸がひとつの町として共同の意識を持つことになったきっかけの一つに、湊川の付け替えという大難関工事を成し遂げた事があげられる。

民間主体による工事の許可が下り、事業を行うにあたって『湊川改修株式会社』が設立された。湊川という交通上・経済上の障害を除き、兵庫・神戸を統合し、お互いの長短を補い、自分達の地域を繁栄させる目的でこの事業を彼等は行った。受益者負担の観点で、地元有力者と共に、新しい国家建設に意欲を見せる建築業者、金融関係者、などの総合力で、この湊川の付け替えという大難関工事を成し遂げた様子は、『川一本』隔てた気質の差を吹き飛ばす後世に誇れる事業であった。

今回の調査を通して、そこにさまざまなドラマが見られたのであった。